

# 八重山のハーブⅡ 「命草」

## 第一回 八重山とピパーチ

私がハーブに取り組んだきっかけは、1988年「人の命」を正面から向き合うことが起きたことによる。当時高校2年生だった娘を事故で亡くしたことからは、これまでの自分の歩き方を変え、人の命と健康を考える道を選択した。そして、人の健康に役立つハーブの活用普及が始まった。2000年JHS入会。

### 八重山の特徴

八重山諸島は日本の最南端、最西端の位置にあり亜熱帯気候の特性を持ち、島を取り巻くサンゴ礁をはじめ、生息する動植物は他県に比べ、際立った特色を持つ。一年中暖かいこの島々には、数多くの「命草」(※)が生息し、豊かな自然の営みがある。西表島の手つかずの大自然、原生林を思わせる川やマングローブ、島々の庭

では今も「アタクイ」(※)が残り、自然と寄り添う「命草」の暮らしが今も脈々と受け継がれている。

※「命草」第22回全国ハーブサミット・

八重山地区ハーブフェスティバル実行委員会で作った造語。沖縄では「命」のことを「ヌチ」と呼び、ハーブは使い方次第で命を育む草であると位置づけ、大切にしていこうと願いを込め「ヌチグサ」と呼んでいる

※「アタクイ」与那国方言で家庭菜園

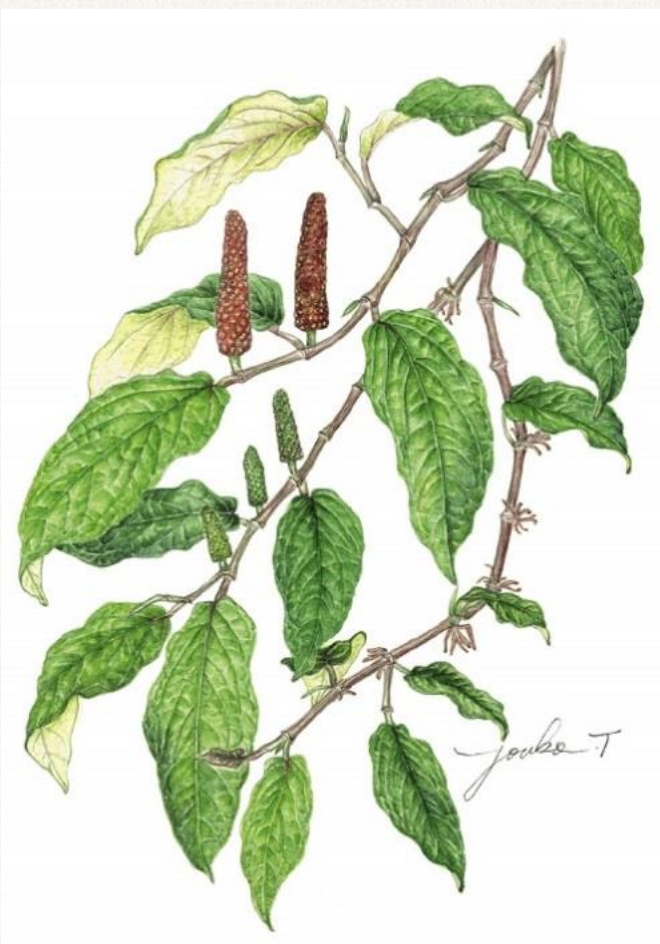


### ハーブからみた八重山の気候風土

八重山は亜熱帯海洋性気候の特徴を持つ。年の平均気温は24℃と凌ぎやすい。寒暖の差は小さく、最寒期の2月は15℃程、真夏の7〜8月には31℃程である。

地中海原産のハーブの栽培は、

写真・イラスト 嵩西 洋子



ピパーチ (ヒハツモドキ) *Piper retrofractum* Vahl  
コショウ科コショウ属 木本性つる植物

真夏の蒸れ時期を外すと、料理に使うオレガノやセージ、タイムなどほとんどのが可能である。特に日本本土の11〜3月頃までの冬場の端境期(はざかいき)はまさに八重山びおけるハーブの栽培適期である。また年間降水量は2000mm以上と多く、その一方で日照時間の長い地域でもある。大地に降り注ぐ太陽のミネラルはハーブにとって活発な光合成を促し、ハーブの有効成分を多く作りだす。このような気候風土は、ハーブだけでなく、人にとっても有効である。海風を浴びると健康になるというのは、ミネラルをたっぷり含んでいるからである。特に喘息などの気管支炎を患う方には、リハビリに効果があり、「シーテラピ」と呼んでも過言ではない。